

時間割コード	Q4401900	開講年度	2026				
授業題目	学校教育と情報【第4欄】					担当教員	藤井 善章
英文授業名	Media for Education						
単位数	2	講義期間	前期(集中)	曜日・時限	集中・不定期	対象学生	L, S, T, A, F
講義室	共通教育1 3 講義室			授業形態	講義	遠隔授業科目	備考
信大コンピテンシー 該当							
(1)授業の達成目標	授業で得られる「学位授与の方針」要素				⇔	【授業の達成目標】	
(2)授業で学べる「テーマ」	その他						
(3)全学横断特別教育プログラム							
(4)授業の概要	学校現場におけるICTの活用について、その歴史的経緯、現状、今後の方向性を理解する。授業における生徒および教員によるICT活用の他、授業の準備、学習評価に関する活用、校務における活用や教育データの活用を取り上げる。また、情報社会を生きていくための資質・能力である情報活用能力について、その構成要素および具体的な指導法、教育課程上の位置づけについて解説する。また、学生自身がICTを活用し、体験的に学修する機会を設ける。						
(5)授業のキーワード	ICT活用、教育方法						
(6)授業計画	第1回：現代社会におけるICTの役割 第2回：教育における先端技術とデジタルコンテンツ 第3回：教職課程を通して身に付けるICT活用指導力 第4回：対話的な学びを深めるICTの活用 第5回：個別最適な学びを支えるICTの活用 第6回：遠隔授業・遠隔学習と学びの保障 第7回：特別支援教育におけるICT活用 第8回：校務の情報化と教育データの活用について 第9回：生徒によるICT活用について 第10回：プログラミング教育で育てる資質・能力について 第11回：学校教育における情報モラルと情報セキュリティについて 第12回：デジタルコンテンツの編成と作成（企画） 第13回：デジタルコンテンツの編成と作成（作成） 第14回：情報活用能力を体系的に育むために 第15回：学校とテクノロジーのこれから、授業アンケートを実施する（最後15分で実施）						
(7)成績評価の方法	各回のレポート（60%）と課題レポート（40%）を総合的に判断して評価する。						
(8)成績評価の基準	規準…概ね目標が達成されているレベル ①…さまざまなメディアの特性を理解している。 ②…ICTを活用した教材開発や授業設計ができる。 ③…メディアリテラシーの基本を習得している。 基準 『かなり上にある』…場面や内容に応じて様々な観点からICTを活用した授業設計を行うことができる。学習活動や内容に応じて、デジタル教材を自ら作成したり、ICT機器を活用することができる。 『やや上にある』…深い学びの展開に向けて、ICT活用した資料を作成できる、もしくは授業設計ができる。						
(9)事前事後学習の内容	ICTを活用した教材を作成する。 ※この授業は、15時間以上の時間外学習が必要となります。						
(10)履修上の注意	教員免許状取得希望者は、選択必修科目となります。 学芸員免許取得希望者は履修することが望ましい。						
(11)質問、相談への対応	講義後、随時対応。 メールでも可。 fujiiy@shinshu-u.ac.jp						
(12)授業への出席	すべての回に出席することを前提としています。 毎回課すレポート（400字程度の記述）の提出をもって出席とします。						
(13)授業に出席できない場合の学修の補充	eAlpsに掲載する資料等で自学自習し、レポートを提出する。						
【教科書】	「ICT活用の理論と実践Ver.2：DX時代の教師をめざして」稲垣忠・佐藤和紀 他,北大路書房, 2025,2200円 中学校学習指導要領、中学校学習指導要領解説総則編、自分の専門教科に関わる中学校学習指導要領 解説、高等学校学習指導要領、高等学校学習指導要領解説総則編、自分の専門教科に関わる高等学校学習指導要領解説						
【参考書】	授業内で随時紹介する。						